

平成21年6月6日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2006～2008

課題番号：18720081

研究課題名（和文）英米文学・文化における「修道女」のサブリメーションの研究

研究課題名（英文）The Sublimation of 'Nun' Image in English Literature and Culture

研究代表者

高橋 美帆（TAKAHASHI MIHO）

天理大学・国際文化学部・准教授

研究者番号：70342532

研究成果の概要：本研究は、社会的に隔絶され語る術を持たない修道女の「声」と、その代弁者としての女性作家たちの作品を照らし合わせ、英語文学における「修道女」のイメージと実像を捉えようと試みたものである。これまで埋もれていた、修道女自身が作者であると思われる作品を発掘し、そうした作品に文学的・文化的影響を受けた翻案作品や表象芸術作品を取り上げて、それぞれの関連を明らかにしながら「修道女文学」とでも名づけるべき作品群の再評価を提起した。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	500,000	0	500,000
2007年度	500,000	0	500,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,500,000	150,000	1,650,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：英米文学、女性史、美術史、比較文学、思想史

## 1. 研究開始当初の背景

最近のジェンダー言語文化研究において、女性作家の「声」や「語り」は文学および文化史において、主たる研究対象となってきた。これまで文学史に名前の載らなかった女性作家たちが、文字通り「発掘」されてきた。

だがそのなかで、未だに発掘されていないのが、作家としての「修道女」である。彼女たちの手紙は受取人の男性の手によって匿名のまま出版された。そのため、真の作者である修道女の姿は浮かび上がってこないまま、作品だけが巷間に広がっていった。

やがて19世紀初期、英国の女性詩人たちが「修道女」の作品に注目し、その翻案作品を発表して、ここに「修道女」をテーマとした大規模な連歌ともいえるべき作品群が形成された。しかし、このテーマおよびその作品群ひいては真の作者像を追求した研究はこれまでになかった。

## 2. 研究の目的

本研究は、「修道女文学」とでも名づけるべき「修道女」をテーマとした作品群の再評価を提起するものであり、同時に、社会的

に隔絶され語る言葉を持たない修道女の「声」と、その代弁者としての女性作家たちの作品を照らし合わせて、英語文学における女性文学史・文化史への新たな加筆を試みるものである。

### 3. 研究の方法

未だ発掘されていない、匿名作家としての「修道女」に着目し、修道女をテーマとする作品群とその影響関係を、文化史という角度から新たに分析した。まず、修道女自身が作者であると思われる文学作品を入手した。そして、そうした作品に影響を受けた翻案作品および表象芸術作品を取り上げ、それぞれの関連を年代順にまとめていった。さらに、こうした作品群とその影響関係を文化史という点から新たに分析し、旧教国を包括しているヨーロッパ文化圏における修道女の歴史的背景と密接に結びつけつつ、英語圏、とくに英国における「修道女」のイメージと実像の比較検討を行った。その際、語る声を持たなかった女性たちに関する記録や資料等にも光を当て、当時の女性作家たちが代弁している修道女たちの真の声・語りを取り入れた。

### 4. 研究成果

(1) 初年度は情報収集を中心に研究を進めた。修道女本人が作者であると考えられる文学作品をできるだけ入手し、それに影響を受けた「修道女」をテーマとする文学作品も同様に入手した。同じく「修道女」をテーマとする表象芸術作品については、その所蔵をあきらかにしていった。海外の専門学会等にも出席し、情報収集と意見交換に徹した。美術作品に関しては、場合によっては所蔵美術館を訪問して、詳細な資料を入手した。また作品の舞台となった、あるいは匿名の作者である修道女が住んでいた修道院も調査対象にし、残存する記録などがあればそれも調べて、修道女たちの書き残したものをできるだけ入手した。

(2) 2年目は、初年度に引き続き情報収集を中心にして研究を進めた。初年度より明らかになったのは、19世紀英国で「修道女」が文学テーマとして流行する契機となったのがヨーロッパの旧教国で流行した一連の小説群であったことである。それを手がかりに、旧教国のなかでもいわゆる英国人のグランドツアーの目的地であり、英米文学作品の多くで舞台となったイタリアで、「修道女」をテーマとした作品群の発掘を試みた。修道女のテーマに最も執心したクリスティーナ・ロセッティはイタリア系英国人であり、彼女の作品の素材を検討するうえでも、イタリアという文化的背景の探究は不可欠であった。また、現地ではさまざまな教会や美術館を訪れ、絵画における修道女の表象という問題にも

取り組み、イタリア絵画が英国19世紀の絵画における修道女のテーマの流行にいかに関与していたのかを検討した。

本年度の研究成果の一部として、以下の論文・図書を公刊した。1点目は“Beyond the Pre-Raphaelite Influence: Young Hopkins's Poetic Progress”―難破した修道女を題材とした「ドイッチュラント号の難破」に至るまでの若きホプキンズの軌跡を、ロセッティ兄妹をはじめとするラファエル前派との影響関係から論じたものである。2点目は『シルヴィア・プラス 愛と名声の神話』―初年度に取り上げたロセッティの修道女作品が抱える「葛藤」という問題を、20世紀女性詩人プラスの観点から掘り下げ、19世紀女性詩人と修道女文学の発展系のひとつとして、プラスの作品を読み直したものである。3点目の『ヨーロッパ・アメリカ文学案内』では、初年度に「修道女」のテーマを比較文学的観点から検討したものを、さらに児童文学という枠組で捉えなおし、英国文学の一面として論じた。

(3) 最終年度は、前年度までに収集した情報や資料等をもとに年表とアンソロジーを作成した。8月末までは昨年度に引き続き、修道女本人が作者であると考えられる文学作品をマイクロフィルムなども参照しながら入手し、同様に、そうした作品に影響を受けた<修道女>をテーマとする文学作品群やそれにまつわる資料も入手した。テーマを同じくする視覚芸術作品についてもその所蔵を明らかにして資料を収集した。また海外の専門学会にも出席し、情報収集と意見交換に徹した。9月以降は、これまでに入手した資料を整理・検討し、<修道女>をテーマとする作品群の年表を作成しながらそれぞれの作品の分析を進めた。今回の成果発表を、将来の出版に向けてまとめる作業に専念した。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① TAKAHASHI Miho, From Emblem to Ideogram: A Reconsideration of Ezra Pound's Early Works, 『天理大学学報』、第220輯、19～28頁、2009年、査読有
- ② TAKAHASHI Miho, Beyond the Pre-Raphaelite Influence: Young Hopkins's Poetic Progress, 『NONDUM』、11号、6～16頁、2008年、査読有
- ③ TAKAHASHI Miho, A Transition of the 'Nun' Image in Gerard Manley Hopkins, 『天理大学学報』、第214輯 45～60頁、2007年、査読有

〔学会発表〕（計2件）

- ① TAKAHASHI Miho, A Reconsideration of Medievalism in Ezra Pound's Early Works, 第22回エズラ・パウンド国際学会大会、2007年6月26日、ヴェネツィア国際大学
- ② TAKAHASHI Miho, Spiritual Symbolism in Gerard Manley Hopkins, 第18回G. M. ホブキンス国際学会大会、2006年7月24日、Monastereven, Ireland

〔図書〕（計2件）

- ① 高市順一郎編、思潮社、『シルヴィア・プラス 愛と名声の神話』、2007年、総ページ258（担当部分：67～99頁）
- ② 天理大学ヨーロッパ・アメリカ学科編、南雲堂フェニックス、『ヨーロッパ・アメリカ文学案内』、2007年、総ページ175（担当部分：52～66頁）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

高橋 美帆 (TAKAHASHI MIHO)

天理大学・国際文化学部・准教授

研究者番号：70342532

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者 ( )

研究者番号：